

福岡市アジア美術館・アートカフェ

ガムランの午後

2021年 11月23日(火・祝)

14:00 開演(13:30 開場) 定員:80名

前売予約:2,000円／当日:2,500円

西ジャワ・スンダの音楽

藤枝守・ガムラン作品から

ガムランの般若心経

ガムランをともなうハーブ・コンチェルト

ガムラン曼荼羅

【出演】

ガムラン:パラグナhakata

(森重行敏、村上圭子、小谷竜一、小林賢直、峰野誉久、飯島あづき、光永誠、渡辺融)

ハーブ:中村理恵

ミニ・レクチャー

ガムランを知る(講師:森重行敏)

ガムラン演奏ワークショップ

ガムランにふれる

日曜日の午後、福岡市アジア美術館のアートカフェの広い空間にガムランが響きます。登場するガムランは「ドウグン」と呼ばれ、西ジャワのスンダ地方で演奏されています。「ガムランの午後」というイベントでは、そのスンダ地方の音楽をはじめ、「ガムラン曼荼羅」やガムランをともなう「ハーブ・コンチェルト」、「ガムランの般若心経」の三つの藤枝守作品が演奏

されます。また、ガムランに関するミニ・レクチャーや楽器にふれあうワークショップも合わせて開催されます。演奏は、福岡に拠点をおくガムラン・グループ「パラグナhakata」。ゆったりとしたアジア美術館のカフェの空間でガムランが響く時間をお楽しみいただけたら幸いです。

三つのガムラン作品について

藤枝守

「ガムランの午後」で演奏される三つのガムラン作品は、すべてパラグナ・グループによって初演されました。パラグナ・グループとの協同作業から生まれたこれらの作品について紹介します。

まず、「ガムランの般若心経」(2013)は、詩人の伊藤比呂美さんから現代語に訳した「般若心経」を歌にしてほしいと頼まれたのがきっかけで生まれました。歌づけに際して、『植物文様』のあるパターンが般若心経の言葉にマッチすることを発見。そのメロディをもとに般若心経の歌づけが完成したのです。さまざまな楽器による伴奏で歌われてきましたが、今回は、冒頭の10分ほどの歌づけがガムラン・ヴァージョンによって演奏されます。

混在する音楽の世界観を唱えたルー・ハリソンへのオマージュとして作曲されたガムランをもとに「ハーブ・コンチェルト」(2018)は、三楽章形式。西山まりえさんをソリストに迎えて初演されました。今回は、中村理恵さんのアイリッシュ・ハーブがソロとなります。作曲にあたっては、植物の電位変化のデータをメロディックに変換する「植物文様」の手法が用いられていますが、その植物は、私が自宅で育てている「コルムネア」という多肉植物です。冒頭のハーブ・ソロのフレーズが特徴的な第二楽章に続いて、第三楽章では、ハーブによるケルティックなフレーズが現れます。

2020年の作品である組曲「ガムラン曼荼羅」は、「曼荼羅」のイメージや「陰陽」にもとづき、円環的な時間構造をもつ楽曲構成が試みられています。まず、ゴングが舞台中央に据えられ、そのゴングを四方から取り囲むように一対のサロン、ボナン、ジュングロンが置かれ、円環的なガムランの曼荼羅が舞台となります。全体は八つの楽曲による組曲として構成され、八つのフレーズがひとつの楽曲をかたちづくり、入れ子構造になっています。この作品も「植物文様」の手法により、香椎宮の御神木である「綾杉」から採取された電位変化のデータに基づいています。なお、来月(11月)、「ガムラン曼荼羅」のCDがリリースされます。

福岡に誕生した「パラグナhakata」と協同しながら、今後、あらたなガムラン作品が演奏される機会を増やしていきたいと思います。



ガムラン曼荼羅の楽譜



ガムランの般若心経

パラグナhakata (ガムラン)

1985年にインドネシア・スダ(西ジャワ)音楽のグループとして結成された「パラグナ・グループ」は、東京を拠点にガムラン・ドゥグン、トゥバン・スダの演奏活動を行っている。その「パラグナ」のメンバーが母体となり、福岡のガムランの演奏家たちが参加して、あらたに「パラグナhakata」が結成された。本日のアジア美術館が最初の公演となる。「パラグナ」という名称は、スダの作曲家ナノ・S氏により命名されたもので、音楽によく通じている者の意。今後、福岡を中心にガムランの演奏活動を展開していく。

★ガムラン・ドゥグンについて

スダ(西ジャワ)には中部ジャワのような強力な王宮が成立しなかったため、大規模なガムランではなく、状況に応じたさまざまな小編成ガムランがある。ドゥグンは貴族階級の儀礼用のものをもとに戦後整備されたもので、舞踊や芝居には用いない。本来は器楽だが、古典曲に歌を入れたものや新作歌曲も多く作られている。バリ島でもレストランなどのBGMとして愛好されている。

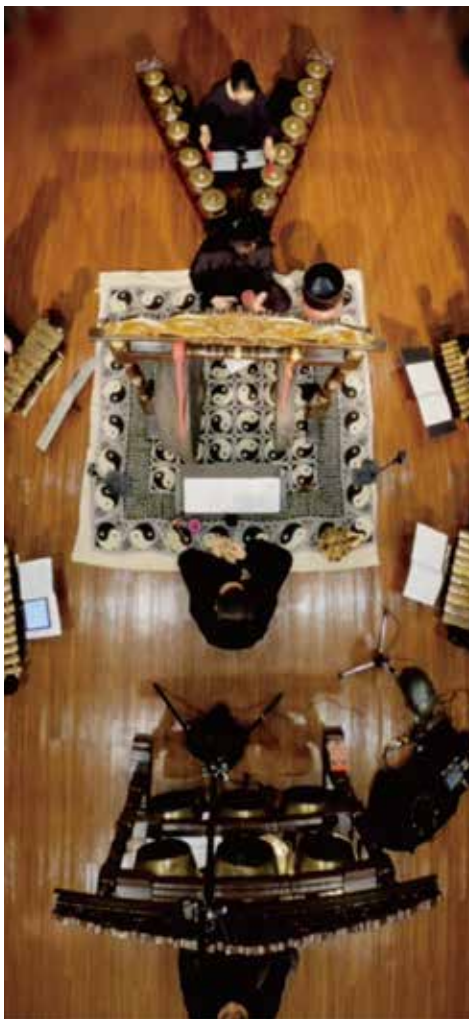
中村理恵 (ハーブ)

佐世保市出身。福岡市在住。おとなからはめるハーブ教室「アンドハーブ」主宰。歴史的に最も古い楽器のひとつで、古代より癒しの音楽、「心の薬」としても用いられてきたハーブ。その豊かな倍音(波動とも言われる)と「天使の歌声」とも称される純粋な音色に魅せられ、教会、緩和ケア病棟、棚田、水上、神社、能舞台など、様々な環境にて演奏活動を展開。2018年には、九州大学大橋キャンパスで開催された舞台作品「冬至にうたう阿知女作法」に出演。2019年には、ほほえみの国タイ(バンコク)保護動物教養チャリティーコンサート、2021年には、藤枝守作曲によるモノオペラ「八雲の向日葵」に出演。
<https://rie88music.com>



藤枝守(作曲)

カリフォルニア大学サンティエゴ校音楽学部博士課程修了。博士号(Ph.D.)を取得。作曲を湯浅譲二やモートン・フェルドマンに師事。植物の電位変化データに基づく「植物文様」シリーズなどの作品がある。近年では、発酵音響や繊維の振動にもとづく舞台作品やモノオペラ「八雲の向日葵」を発表。「台湾茶の植物文様」や「クラヴィコードの植物文様」、「ゴシックハーブの植物文様」、「ルネサンスの植物文様」など、多くの「植物文様」のCDがリリースされている。2021年10月から開催される九州大学総合研究博物館(旧工学部本館)を舞台とする配信音楽イベント「リスニング・ミュージカム」の音楽ディレクターをつとめる。九州大学名誉教授。



曼荼羅となったガムラン 陰と陽 旋法と律動のなかで
絡み合う「植物文様」のメロディ。
照合のなかから浮かび上がる響きに、時空の回廊が生まれる。



NEW RELEASE
ガムラン曼荼羅 (MAM-0003)
作曲: 藤枝守
演奏: パラグナ・グループ(ガムラン)
レーベル: Milestone Art Music
発売日: 2021.11.24
価格: ¥2,545 (¥2,800 税別)
●バイナール録音
MAM
MILESTONE ART WORKS
http://www.milestone-art.com/
info@milestone-art.com
tel: fax 076-493-9777

福岡アジア美術館アクセス



福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル7・8階
TEL 092-263-1100

- 地下鉄／中洲川端駅下車、6番出口より徒歩すぐ
- 西鉄バス／川端町・博多座前バス停下車、徒歩すぐ

アカデミア千年芸術ラボ企業組合

今年(2021年)に「アカデミア千年芸術ラボ」(通称、千年ラボ)は、箱崎を中心とした福岡における芸術実践と教育プログラムの立案や制作を実施するために設立された。九州大学箱崎キャンパス跡地の再活用に向けての立案や箱崎水療館喫茶室を教室とした「音楽塾」などを実施しながら、芸術文化活動を通じた箱崎のあらたな街づくりにも貢献していく。

音楽ディレクター: 藤枝守 主催: アカデミア千年芸術ラボ企業組合 協力: NPO法人日本ガムラン音楽振興会